

け や き



確かな学びの力

～ 学力向上フォーラムから得たもの ～

大仙市教育委員会 教育長 吉川 正一

「子どもたちの学ぶ力と教師の探究心」

昨年11月23日に開催された県教委主催「学力向上フォーラム」では、県内外の教育関係者から数多くの感想をいただいた。その感想から主役である子どもたちの学ぶ姿と教師の授業への姿勢が読み取れる。いくつか紹介すると…

- ・子どもたちがきちんと人の話を聞く姿勢が素晴らしい。低学年から徹底していることが伺える。先生が促すことなく、発表する姿を多く目にし、日々のアウトプットの取り組みが大切であると再認識しました。
(岡山県教育委員会関係者)
- ・子どもたちの学びの姿はもちろんであるが、先生方が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に真正面から向かっている姿に学ぶことが多かったです。
(青森県教育委員会関係者)

このような感想が数多く寄せられていた。子どもたちの学ぶ姿勢と先生方の授業への意欲に改めて感謝したい。そして、その表れが子どもたちと先生方の「笑顔」に表れていると思う。

思えば、教育長就任以来、学校訪問等でよく話すこと…次の3点である。

- ・クラスの安定は「教師の表情（笑顔）」
- ・しつけるべきことは全校体制で徹底（聞く姿勢、挙手の仕方、鉛筆の持ち方等）
- ・子どもの躓きから学ぶ…躓きは教師を伸ばす

どの授業もこれらのことがしっかりと培われてきた成果と評価したい。「秋田の探究型授業」と言われてはいるが、私はこのことが根っこにあるからこそ進めることができたと感じている。今後もこの3点は引き続き学校訪問時の参観ポイントにしていきたいと思っている。

「『大仙教育メソッド』は『社会に開かれた教育課程』を支える」

今回の学力向上フォーラムでは、太田中学校の後藤校長先生が「大仙教育メソッド」に関する実践を発表してくださいました。素晴らしい内容であり、市内11の中学校区が

「連携」を大切にした特色ある取組がなされていることを再認識させられた。

新学習指導要領のキーワードに「社会に開かれた教育課程」がある。訪れつつあるSociety5.0における学校は、まさに開かれ、つながる教育課程を目指していると思う。「大仙教育メソッド」は連携による特色ある学校づくりのための手法ではあるが、“持続可能な教育”を進める上でもさらに充実させていきたいと思っている。これらのことについて、フォーラム参加者からも感想をいただいている。

- ・大仙教育メソッドは、新しい取組を進めるのではなく、これまで行なわれている地域にあるものをつなげていくことであり、それが今、実を結び始めているとの話。それが、子どもたち、教師、地域の方々の優しさや教育に関わる姿につながっていくと思いました。地道な取組が大曲の花火のように大きく実を結んでいるように感じます。大変収穫の多いフォーラムでした。
(沖縄県教育委員会関係者)



<主体的に学ぶ子どもたち>



<話し合う子どもたち>

最後に、昨年オーストラリアへの中学生海外派遣事業に参加した生徒の報告書の一部を紹介して結びとしたい。

- ・私は、この研修からたくさんを学びました。例えば、現地の人のフレンドリーな人柄や積極的に話しかける姿勢、そして初めてのことに挑戦するチャレンジ精神などです。私は、日本に帰ったらいろいろなことにチャレンジする、と心に誓いました。そして日本に戻ってから、「『絶対無理』『やる前から諦める』』ということはないようにしよう」と、自分の中で意識が変化しました。

地域の教育力を活用したふるさと学習

地域の伝統文化の継承に向けて

大仙市立西仙北小学校 校長 佐藤 政美

大沢郷地区には、江戸時代中頃（約300年前）から伝わる番楽で、平成元年に大仙市無形民俗文化財に指定された「椒沢番楽（はじかみざわばんがく）」がある。今年度、この番楽保存会が、県生涯学習課の「民俗文化財公開交流事業」指定を受けたのを機に、学校と連携して「民俗芸能の小・中学校等での公開」を11月1日（金）祖父母参観日に行った。



＜椒沢番楽（はじかみざわばんがく）＞

当日は、体育館を会場に全校児童と職員、祖父母や保護者およそ450名が、本番さながらのステージの舞に熱い視線を送った。「刈和野の大綱引き」に比べて、この番楽は圧倒的に知名度が低い。このような地域に眠る民俗芸能を、「秋田の宝」として広く周知させるのも本事業の大きなねらいであった。

現在、椒沢番楽保存会が抱える課題は、「後継者不足」である。活動中の会員は8名（本校児童3名）と少なく、伝統文化の継承が危ぶまれる状況である。地域の担手育成が急務であることから、今回の学校での公開は、子どもを含む地域住民に伝統文化継承の大切さを強く意識付ける絶好の機会となった。

他校との合同学習

新しい自分に出会うきっかけに

大仙市立南外小学校 校長 佐々木 明子

自他のよさや可能性に気付き、新しい自分に出会うきっかけづくりという願いのもと、3年前から、他校との合同授業を行っている。3年：東大曲小、4年：内小友小、5年：神岡小、6年：角間川小。今年は更なる充実を目指して年2回とし、1回目は外国語活動、2回目を道徳の授業とした。

1回目は楽しくコミュニケーションを取りながらの学習になったが、道徳では、生き方や価値について互いの思いや考えに触れ、刺激を受けることができた。また、積極的に発言したり、進んで関わろうとしたりして、普段とは違う面を出す子どもたちも多く見られ、課題である「公の場で話せる子ども」に一步近付けたのではないかとと思う。

事後には、相手校のよさを感じ取り、自分の生活に具体的に生かそうとする姿も随所に見られ、前向きな変容が感じられた。

来年度は、他の教科でも行いたいと、意欲を見せている子どもたちである。



＜5年道徳・グループでの意見交換＞

大仙市校種間連携懇談会（市教育委員会）

魅力的で特色ある教育活動の推進に

大仙市教育委員会教育指導課 課長 島田 智

魅力的で特色ある教育活動の推進に資するため、大仙市内の保育所・認定こども園等、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の園長・校長と教育関係者計75名が一堂に会し、大仙市校種間連携懇談会が令和元年5月10日（金）に開催された。

協議1では中学校区ごとの11グループで、幼・小、小・中、中・高連携について、既に行っている連携を確認した。

協議2では、「幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を小学校につなぐために」をテーマとした幼・小連携部会（12グループ）と、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のためにどんな連携ができるか」をテーマとした中・高連携部会（4グループ）に分かれて、活発な協議が行われた。幼・小連携部会では、横堀小学校佐藤信夫校長先生からスタート・カリキュラムの実際についての提案があり、その後の協議でスタート・カリキュラムの作成について見通しをもつことができた。中・高連携部会では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善における中・高連携や、中・中連携が可能な場面について検討することができた。

本懇談会で、「大仙教育メソッド」の核となる「連携」を広げ、深めることができた。

大仙市PTA連合会の活動

学校と家庭と地域を「つなぐ」

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 田口 匡浩

今年度も「中学生サミットへのオブザーバーとしての参加」「あいさつ運動のポスター作成」、年2回の研修会及び会報発行等の活動を継続してきた。また、本市で秋田県PTA研究大会が行われ、県内から多くの参加があった。充実した成果を得るとともに、大仙のよさを発信する機会となった。今年度の研修会等の活動の概要は、次のとおりである。

第45回秋田県PTA研究大会大仙大会

実施日・会場	概要
10月19日（土） 10月20日（日） フォーシーズン 大曲市民会館	大会主題「咲かせよう！笑顔の花 届けよう！子どもたちに」 ・研修会、情報交換会 ・記念講演 ブラボー中谷 氏

本市PTA連合会研修会

実施日・会場	概要
第29回研修会 1月31日（金） 大曲エンパイヤホテル	・児童生徒の学力等の状況について ・大仙市教育委員会が行っている事業の取組について ・秋田県PTA研究大会大仙大会について

今後も家庭の思いや願いと学校と地域を「つなぐ」活動を大切にし、PTA活動の一層の推進を図っていきたい。

「大仙ふるさと博士育成」事業 (市教育委員会)

地域の将来を担う人材の育成を目指して

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 田口 匡 浩

本事業は地域と関わる活動を通じて、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指すことをねらいとして、平成28年7月から始めている。

今年度、より多くの児童生徒が訪問・体験等を行うことができるように、次のようなことを実施した。

- ①市教委で作成している訪問・体験先リスト数を増やす。
- ②夏季休業と冬季休業に実施している、「企業見学DAY」「ふるさと農業体験DAY」

において、参加定員数を増やす。また、一人が訪問・体験できる数を制限する。今年度の申請・認定者数は次のとおりである。

初級：670名 中級：889名 上級：303名
名誉博士：57名 (令和2年2月末日現在)

今年度は、新たに54名の名誉博士が誕生した。また、参加対象を拡げたことにより、12名の高校生の参加もあった。本事業が児童生徒や保護者、さらには地域の方々にも浸透してきていると感じている。

今後は、子どもたちに新たな発見や疑問が生まれ、地域の人々の思いにふれることができるようにしていくために、地域に根ざして努力している素晴らしい企業や施設等の新たな訪問・体験先の開拓を行っていきたくと考えている。



＜宮腰精機国見工場＞

コロンプスの卵アキタ・デ・サイエンス事業 (市教育委員会)

科学と生活の結び付きを考える

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 木元 真一

大仙市、由利本荘市、秋田市で科学にふれ、エネルギーと電気を利用した生活について考える研修を行った。

(1回目) 8月1日 (木)

中学生14名が参加し、秋田県立大学システム科学技術学部(本荘キャンパス)でプログラミングを体験した。マイクロコンピュータで実際にプログラムを動かした。

(2回目) 10月15日 (木)

中学生13名が県内の発電所で研修を行った。間伐材のウッドチップを利用する「大仙バイオマスエネルギー協和発電所」と、「秋田火力発電所」を比較し、それぞれの発電所に燃料確保等のメリットやデメリットがあることを学んだ。



＜秋田県立大学＞



＜大仙バイオマスエネルギー＞



＜秋田火力発電所＞

グローバルジュニア・マイスター事業 (市教育委員会)

『伝わるってうれしいね!』

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 牛木 豊

○今年度も国際理解に係る学校行事や国際教養大学との異文化交流事業を活用した取組が行われた。

【国際教養大学との異文化交流事業報告書から】

・英語が話せないと心配していた児童も、簡単な表現を用いて英語でコミュニケーションが図れる体験を通して、外国の人々とやり取りする楽しさを感じることができた。

・これまで授業で学んだ文法や語彙を使って自分の考えを表現する実践の機会となった。事後のアンケートには、「自分の英語が通じて、うれしかった」「英語学習の必要性を感じた」等感想が多くあり、意欲や関心の高まりが伺えた。

○今年度の認定者数は次のとおりである。

[令和2年1月末日現在]

ブロンズ : 129名 (514名)

シルバー : 65名 (155名)

ゴールド : 28名 (57名)

マイスター : 16名 (23名) ()内は卒業生を含む累計

○市の研修で、児童生徒との関わり方等について好事例を共有し、ALTのスキルアップにつなげていきたいと考えている。



＜東大曲小 国際教養大学訪問＞

心のプロジェクト「夢の教室」(市教育委員会)

子どもたちの夢と未来をつなぐ架け橋

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 菅原 清三

今年度の「夢の教室」は、スポーツ分野から2名、芸術(絵画・音楽)分野から2名の先生方を招き、小・中学校合わせ29校で開催した。今年度も素敵な夢先生たちが来てくださった。

教室では、子どもたちが一緒に体を動かしたり、芸術家の作品や演奏を実際に鑑賞したりして、スポーツや芸術の素晴らしさに触れることができた。また、夢先生の子どもの頃の夢、夢を叶えるまでの苦労話や挫折談等を聞き、「目標をもつこと」「根気強く続けること」等、これからの自分の生き方の糧となることを学んだ。そして、夢や目標に向かってチャレンジしようという気持ちを新たにさせた。

この出会いが、子どもたちの夢と未来をつなぐ架け橋となってくれることを願っている。



＜スポーツバージョン＞



＜図工バージョン＞

大仙市中学生サミット (市教育委員会)

地域がつながる！
ふるさと大好きプロジェクト

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 田口 匡浩

【中学生サミット全体会 令和元年8月16日(金)】

<第1部>これまでの活動の歩みを振り返るとともに、西仙北高校、大曲農業高校太田分校生徒会代表による地域に関わる取組紹介や大曲南中、平和中による実践発表を行った。中学生サミットの意義や必要性を全体で共通理解し、意識を高めることができた。



＜グループ協議の様子＞

<第2部>協和中による地域活性化に関わる実践発表を参考に、グループごとに地域貢献の在り方について協議し、様々な意見やアイデアを出し合うことができた。中学校区ごとに小学生や高校生、行政関係者等も加わり、小・中・高・地域連携の輪を広げるとともに、中学生サミットとして話し合ったことを各校で実践していくことを確認した。

【その他の主な取組】

- ・REVO通信No.1～No.4の発行
- ・避難所開設訓練への参加(豊成中学校にて)
- ・中学生サミットポスターの作成と配布
- ・REVO11(各校版REVO通信)発行

大仙市立中学校生徒海外派遣事業 (市教育委員会)

Learning through Experience

大仙市立大曲西中学校 教諭 佐々木 喜香

ホームステイ初日、各家庭へと向かう生徒たちの後ろ姿は幾分不安気であった。しかし、帰って来た時の表情は一変していた。達成感や充足感、自信などといったものが見てとれた。ホストマザーたちからは「何でもよく食べ、よく働いてくれた」「熱心に話を聞いてくれた」「コミュニケーションが十分にとれた」と、賞賛の言葉ばかりいただいた。



＜ホストマザーとのお別れ＞



＜インタビューの様子＞

ケアンズで活躍する日本人の方々へインタビューした時も同様で、一生懸命に話を聞く姿や、よく考えられた質問内容に感心しておられた。誇らしい限りである。

楽しかったオーストラリア研修。それでも、成田空港に到着した時には、生徒の口々から「やっぱり日本っていいなあ!」という言葉が聞こえてきた。離れてみたからこそ、日本のよさを再発見できたのだろう。

彼らが今回の経験を糧とし、どんな未来を描いていくのか楽しみである。

大仙市中学生議会 (市教育委員会)

笑顔あふれる魅力あるまちを

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 田口 匡浩

1月9日、3年ぶりに大仙市中学生議会が大仙市役所本会議場で開催された。大仙市の未来を担う中学生が、議長や議員となって市の事業や取組について質問や提案を行った。

様々な視点から大仙市を見つめ直し、課題意識を高めた中学生議員に対して、市長、副市長、教育長、各部長が誠意をもって丁寧に答えてくださった。



＜太田中学校の一般質問の様子＞

この中学生議会の経験

と、これまでの取組をきっかけとして、大仙市の行政や議会への理解を深めるとともに、各中学校での様々な取組や地域と連携した活動がさらに活性化すること、そしてそれが大仙市全域に広がっていくことを期待している。

～大仙市中学生議会宣言～

私たち大仙市の中学生は、「ふるさと大仙のよさ」を大切に守り続けるとともに、大仙市の未来をつくる主役として、地域の皆さんと力を合わせ、笑顔あふれる魅力あるまちを創造していきます。

「大仙っ子読書の日」に係る取組事例

図書利用による学習環境の充実

大仙市立藤木小学校 校長 山信田 浩

今年度、大曲仙北教育研究会学校図書館研究会の授業公開校として、児童の学びにおける図書利用を推進してきた。

◇学年独自の読書コーナー

各学年で、教科や総合的な学習の時間に関連した図書を集めたコーナーを設置し、いつでも利用できるようにしている。児童は、思い付いたときに気軽に調べ学習をしたり、関連する読み物に触れたりすることができる。



＜独自の読書コーナー＞

◇小学生版「ビブリオバトル」

児童会の図書委員会が企画して、下学年と上学年に分かれたビブリオバトルを開催した。各学年の代表児童6名が、資料を作成してプレゼンテーションを行い、投票によってチャンピオンを決定した。紹介された6冊の図書は、児童玄関脇に展示され、多くの児童が手にとって読むことができた。



＜ビブリオバトルの様子＞

今後も、ICTの活用と並行して、図書環境の充実を図り、児童の深い学びを創造していきたい。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

大仙市立大曲小学校 教諭 田村 佳久美

1 はじめに

昨年度から2年間にわたり、標記事業の拠点校として指定を受け、「知識や技能を活用したり知識等を相互に関連付けたりして深い理解につながる学習活動」を重点として、授業改善に取り組んできた。

2 取組の概要

(1) 児童に働かせたい「見方・考え方」を明確にした単元構成・授業展開

- ・「単元で付けた力を身に付けた児童の姿」と「児童に主に働かせたい『見方・考え方』」を明確にして単元や授業を構想することで、教師の支援をより具体的なものにした。
- ・各教科等で育成を目指す資質・能力を関連付けたカリキュラム・デザインを作成することで、教育課程の中の教科や単元の位置付けやつながりを確認できるようにした。

(2) 知識・言葉をつなぐ「学び合い」の場の設定

- ・友達の考えと自分の考えを「比べて聴く」、友達の考えに自分の考えを「つなげて話す」ことにより、知識と知識、言葉と言葉がつながる学び合いができるようにした。



<比べて聴く>

- ・児童の考えや発言を見取った上での問い直しや根拠を問うことで、児童の既得の知識や技能から解決の糸口を引き出せるようにした。また、児童が働かせている「見方・考え方」を教師が価値付けることで、自覚できるようにした。

(3) 自己の変容の自覚のため「振り返り」の実践

- ・児童の思考の流れが捉えやすい板書を工夫し、ねらいに応じた視点を示して振り返りをさせることで、児童が自己の変容を自覚したり、生活や学習で役立てたりできるようにした。

3 成果と課題

- 教師の支援が具体的になり、児童が「見方・考え方」を働かせて、「目指す児童の姿」に向かうことができた。
- 「比べて聴く・つなげて話す」実践により、言葉や知識がつながる学び合いができてきた。
- 視点を明確にした振り返りが、自己の変容の自覚につながり、次の学習や生活に生かされてきた。
- 「見方・考え方」に基づく授業改善を、重点教科部での取組から教師一人一人の教科指導の取組へ広げる。
- 知識と知識がつながる「学び合い」と、メタ認知につながる「振り返り」の充実を図る。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業

思考の活性化から深い学びへ

大仙市立大曲中学校 教諭 中山 憲太郎

1 はじめに

昨年度から標記事業の拠点校として指定を受け、「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善」「カリキュラム・マネジメント」を両輪として研究を推進してきた。特に「授業改善」においては、本校の研究のキーワードである「思考の活性化」を中心としたこれまでの取組を、「授業改善サイクル」として再編成した。

2 授業改善サイクルの実際

授業改善サイクルは、「大曲中学校としての『見方・考え方』の捉え」「振り返りカード(マイヒストリー)」「PADカード」によって、「『秋田の探究型授業』の基本プロセスを機能させた授業づくり」と「『思考の活性化』を促し、『深い理解』を実現する単元(題材)づくり」という二つの核を強化していくイメージである。



3 生徒と教師のアンケート記述から

<生徒から>

- ・「～な場合はどうなるのだろうか」と思うときがあるようになった。
- ・習ったことを使って何かできないか考察して、それを次の授業等で試すようになった。

<教師から>

- ・「見方・考え方」について共通理解することで授業づくりに安心感がある。
- ・振り返りカード(マイヒストリー)で生徒の振り返りを継続的に見ることで、単元を通しての変容・深まりが見られる。また、生徒の「つまづき」「困り感」を基にした授業づくりにつながっている。
- ・振り返りカード(マイヒストリー)で生徒と教師が「見方・考え方」を共通理解できていることは有意義である。
- ・「PADカード」による教科の枠を越えた授業参観が、自身の発問や活動の精選につながった。
- ・普段の授業においても、Passive・Active・Deepの視点で生徒を観察するようになった。

大仙教育メソッドの推進

大仙教育メソッドの重点

大仙市立太田中学校 校長 後藤 宏

本地区では、今年度大仙教育メソッドの三つの力の重点を改めて確認した。「基礎となる力」の重点は「市民性」「よい生活習慣」。「学ぶ力」は「読書や家庭学習の習慣化」「協働的な問題解決力を高めること」。「活かす力」は「社会に関わろうとする態度や行動力」という具合である。

「学ぶ力」の重点の「協働的な問題解決力（情報を共有しながら対話や議論を通して、考えの共通点や相違点を理解し合い、意見をまとめながら課題の解決に向かうこと）」を高める実践のひとつが、ESDの視点に立った「太田地区の未来を考えよう～太田をよくするための12の目標～」である。学区内の小5～中3の全児童生徒を対象に「太田をよくするためのアンケート」を実施し、結果を12個の目標（太田版SDGs）にまとめた。この目標を活用し、太田をよくするための優先度を表した「目標ピラミッド」の作成及び最上位の目標を達成するためのプログラム（問題の分解・原因の追究・解決策考案）に挑戦した。ゲストに市民サービス課の方や太田公民館長をお呼びした。

大仙教育メソッドでは「つなぐ」がキーワードだが、目指す資質・能力という糸で地域や学校の財産をつないでカリキュラムに落とし込む工夫も大切であると考えている。



＜太田地区の未来を考えよう＞

「小中連携合同学習」（外国語活動）

意義ある交流授業の継続を目指して

大仙市立仙北中学校 教諭 出町 吉弘

1 はじめに

平成22・23年度に実施された国立教育政策研究所指定の小中連携教育実践研究の流れを受けて、今年度も11月に横堀、高梨両小学校の5年生計48名が仙北中学校を訪れ、体育館で中学2年生60名と外国語活動の交流授業を行った。

2 具体的な取組

- (1) 教師、ALT、代表生徒による活動の例示
- (2) 小中混合グループに分かれての自己紹介
- (3) グループでの“Who am I?”ゲームの実施

3 成果と課題

○中学生は、相手意識を大切に分かりやすく話すことができた。小学生は、事前に準備したプロフィールカードを効果的に使い、中学生に教えてもらいながら積極的に活動に参加した。

●活動をより円滑に進めるために、活動の流れと使用する語彙を事前に児童生徒に周知することが必要である。



☆コミュニケーションに対する意欲の向上、中1ギャップの緩和を目指し、意義ある交流を継続していきたい。

秋田の探究型授業の継承

秋田の探究型授業の継承

大仙市立協和小学校 校長 今野 天美

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた秋田の探究型授業の継承に視点を当て、学力向上フォーラムの座談会でお話した協和地域の取組を紹介する。

1 具体的な取組

- (1) 「一教員一研究授業」を実行するとともに、子どもの資質・能力の向上に係る視点を明確化し、年齢や立場のバランスを考慮した少人数グループでの協議会スタイルをとっていること。
- (2) 教育専門監制度を導入し、授業の活性化が日常的に行われていること。
- (3) 「仙教研」等の任意団体から発信される研究成果を授業改善に生かしていること。

2 取組の成果

- ベテランから中堅、若手教員へ指導技術が受け継がれている。
- 得手不得手、年齢、経験の枠組みを超えた同僚性の中での研修が進められている。
- 勤務校は違っても、研究団体の会員同士のつながりで情報交換や意見交換が行われている。勤務校が変わっても大筋同じスタンスで教科指導ができることは、子どもにも有益なことである。

第62回秋田県学校給食研究協議大会 大曲仙北大会

地域とつながる 未来につなげる 食育

大仙市立花館小学校 校長 佐藤 厚子

本大会は、学校給食の指導・管理・運営に関して、地域の特色を生かした学校給食の在り方についての研究協議を行い、秋田県における学校給食の充実と改善及び指導力の向上を図るという趣旨の下、

「心身ともに健康な児童生徒の育成を目指す学校給食の在り方～地域とつながる未来につなげる食育～」という大会主題で7月31日（水）、大曲市民会館で開催された。



＜開会式＞

大会では、開会行事及び表彰式の後、大曲農業高校のみなさんによるアトラクション（郷土芸能の発表）と、「食に関わる取組について」という実践発表が行われた。文部科学省の「スーパープロフェッショナルハイスクール」事業の指定を受けて実践された農業に関わる取組は、地域との連携において大変興味深いものがあった。

また、「地域とつながる未来につなげる食育」をテーマとした食育フォーラムでは、辻卓也大曲納豆汁旨めもの研究会代表、工藤浩一大仙市教育委員、佐藤啓子大仙市食生活改善推進協議会長、櫻田武大仙市教育研究所長、長澤香栄養教諭（横堀小）がそれぞれの活動や食に関する熱い思いを紹介し、様々な取組について理解を深めた。

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 (市教育委員会)

「自助」から「共助」へと

大仙市立豊成中学校 校長 藤原 修悦

1 はじめに

本校では10月29日(火)、地震災害を想定しての、だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業(避難所開設訓練)を実施した。本校生徒と職員に加え、関係各機関の協力を得て、総勢260名に及ぶ訓練となった。

2 訓練の概要

訓練は、「学校、地域住民(地域防災組織)、関連機関との協力体制を確認するとともに、連携した訓練を通して、自助から共助へと主体的に行動する力及び防災に対する高い意識を身に付ける。」を主なねらいとして実施した。実際の活動では①生徒避難→②避難所開設→③地域住民避難→④避難所運営→⑤避難者への食事の提供を行った。



＜食事を提供する様子＞

3 成果をステップにして

今回の訓練では、本校生徒と共に中学生サミットメンバー及び大船渡市立赤崎中学校2年生の皆さんが活動を展開した。未来社会を創り、将来、地域の担い手となる中学生が積極的に関係機関や地域と連携・連帯してこの訓練を遂行した意義はとても大きい。「自助」から「共助」へと新たな一歩を踏み出した。

第28回山下太郎顕彰育英会地域文化奨励賞

地域と一体となった防災教育を重ねて

大仙市立平和中学校 校長 佐藤 嘉弘

本校は、ふるさとや地域に寄与できる生徒の育成を目指し、地域防災と被災地での学びを両輪とし、地域と一体となった防災教育を長年学校経営の柱に据えて教育活動を営んできた。



＜避難所開設訓練＞

1 主な取組

- 地域防災で地域の力に「守りの防災教育」
 - 平成25年度から継続している地域一体の避難所開設訓練(平成29年の秋田豪雨では避難所に)
- 被災地で学ぶ「攻めの防災教育」
 - 平成24年度から岩手県大槌町吉里吉里地区での心の支援交流
 - 平成26年度から5年間実施した「復興祈念・交流夢花火大会」



＜被災地交流＞

2 成果と課題及び今後の展開

地域や被災地からの多くの感謝や期待の声が、自己有用感と地域貢献意欲の向上につながっているが、時間や費用、学びの状況等から活動のスリム化と学びの焦点化を図る必要がある。地域と学校の双方向の関係性を重視した学びの充実となるよう、地域と話し合いながら系統的防災学習を実践していきたい。

平成31年度 人権ユニバーサル事業

実現しよう! 心のバリアフリー

大仙市立大曲西中学校 校長 築地 高

本校では秋田県委託「人権ユニバーサル事業」を活用して「心のバリアフリー学習」を推進している。障がい者理解教育を基盤に、多様な人々による共生社会の実現に不可欠な他者への共感・思いやりの心の醸成を目指し、次のような教育活動を展開した。

- 大曲支援学校との交流(ポッチャ交流・作業学習)
- ダイバースアート展示会及び実演授業
- 車いすバスケットボール体験
- パラリンピアン講演会等



＜ポッチャ交流＞

○優しくて素直な生徒が多い本校にとって、本学習は「学校の強み」を生かした取組と言える。生徒は自分の周りのバリアを意識するようになり、多様性について考え、バリアフリーについての基礎的な知識・技能を身に付けた。本校が目指す生徒像「他を尊重し、思いやりの心をもつ生徒」の実現にも資する活動となっている。

今後はさらに多様な他者とのコミュニケーション力を高め、一人一人にできることを継続して考える力を養いたい。また、様々な体験活動をキャリア教育や各教科等の教育活動と系統的に関連付け、より有意義な活動に高めていきたい。

第28回山下太郎顕彰育英会地域文化奨励賞

豊かな人間性を育む全校音楽劇の取組

大仙市立太田北小学校 校長 福山 新悦

2007年に学習発表会を取りやめ、全校音楽劇一本に絞って公演してから、今年で13年目になる。今年度、幸いにも「山下太郎顕彰育英会地域文化奨励賞」という輝かしい賞を受賞することができた。過去12年間の子どもたちと支えてくださった方々が受賞したものである。

1 取組の成果

プロの指導を仰ぐことで、表現力が向上した。また、全校児童が関わることで、思いやりの心が育まれた。さらに、全校一丸となって取り組むことで、達成感を味わい、様々な人々から賞賛されることで自己有用感を味わうことができた。このことは、日頃の学校生活にも大いに役立っている。

2 今後の課題

様々な人々に支えられ、恵まれた環境の中で音楽劇ができています。「環境は人をつくる」まさに、そのとおりである。来年度から新学習指導要領が全面实施となり、指導内容が増える中で、いかに時間を見だし計画的に音楽劇を継続していくかが大きな課題となる。令和という新しい時代の中で、児童一人一人に豊かな人間性を育み、生き抜く力を身に付けさせるためにも「環境は私たちがつくる」という気持ちで、継続していきたい。



＜令和最初の全校音楽劇＞

教師も知識のアップデートを

大仙市教育委員会 教育研究所長 櫻田 武

子どもたちが、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか」という目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることができる」ように、教師は常に知識のアップデートが必要である。

本市では、教職員研究集会の前半に、次の二つの職務別研修会を実施した。

【生徒指導・特別支援教育合同研修会】

(担当：阿部光教 指導主事・木元真一 指導主事)

現在、生徒指導における問題は多岐にわたり多様化している。そのため、問題解決への対応は慎重に行わなければならない。そこで、教職員の生徒指導における技能の向上を目指し、昨年度に引き続き、生徒指導主事及び特別支援学級担任、学校生活支援員等による合同研修会を開催した。



＜ロールプレイの様子＞

今年度は大曲支援学校高田あづき教諭から、「アンガーマネジメント～『怒り』の正体と対応～」について、ロールプレイを交えて講演をしていただいた。参加者が自分を振り返ったり、お互いを尊重する考え方等を体験したりすることを通して、人間関係能力の向上を図ることができた。次年度以降も、児童生徒の不登校をはじめとする諸問題の背景にある「発達障がい」についての理解を図り、効果的な対処の仕方について学ぶことをねらいとした研修を積み重ねていきたい。

【プログラミング教育研修会】

(担当：田口匡浩 指導主事)

学習指導要領改訂に伴う小学校プログラミング教育の円滑な導入に向け、プログラミング教育についての理解を深めるとともに、プログラミング教育の指導力向上に資することをねらいとし、小・中の情報教育担当者が参加となる研修を開催した。

はじめに担当指導主事から、小学校プログラミング教育の趣旨及び円滑な実施に向けた取組について説明を行った。次に、講師からScratchを用いて正多角形を作成するプログラムの紹介していただいた。

最後に、中学校区ごとに分かれ情報交換を行った。中学校でのプログラミング教育の実際や中学校に進む際にどの程度のメディアに対するスキルが必要なのかなど話題となった。



＜中学校ごとの情報交換の様子＞

今後は、学校ICT環境を整備していくとともに、パソコンを使用する研修や実践例の紹介等、研修内容を考え、継続していきたい。

新学習指導要領実施に向けて

大仙市教育委員会 教育研究所長 櫻田 武

本市における今年度の教職員研究集会は、新学習指導要領の全面実施に備え、秋田県教育庁南教育事務所、健康増進センター、地域の銀行の力も借りながら、各教科・領域等別のグループ研修を企画した。

15に分かれた各グループにおいて、児童生徒が一人一人の資質・能力を伸ばし、生きる力を育むことができるように、学ぶことの意義を実感できる環境整備の方法や、各教科等の学びの質を向上させるための授業改善について、参加者は熱心に学んでいた。



＜新学習指導要領について＞

平成31年度 教育研究所のあゆみ

1 大仙市特別支援学校担任等研修会

平成31年度特別支援学級担任等研修会(R1. 5. 31)

□全体会

○教育研究所長挨拶

□研修会

・指導主事による講話・演習

・グループ協議

2 大仙市教職員研究集会

第25回大仙市教職員研究集会 (R1. 7. 30)

□職務別等研修会

○生徒指導・特別支援教育合同研修会

○プログラミング教育研修会

□全体会

○吉川教育長挨拶

○学力向上推進委員会の取組について

□各教科等別研修会

・指導主事等担当者による講話・演習

・グループ協議

3 学力向上対策 (学力向上推進委員会の活動内容)

- (1) 全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査の分析結果を提供及び公表
- (2) 「教科等の本質を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善の推進事業」に、全ての小・中学校が研究ネットワーク校として拠点校とともに研究を推進

発行 大仙市教育研究所

〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16

TEL : 0187-63-9400 FAX : 0187-63-9401

E-mail : om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp